

月を見て赤水しのぶ

高萩 墓や住まい巡る

松月亭の説明を受ける参加者たち（10日、高萩市で）



催した。

約30人の参加者たちはまず墓参をした後、隠居暮らしをした松月亭跡を訪れ、建物の由来や晩年の様子の説明を受けた。赤水図を作成し、地理学者として知られる赤水だが、星図を書籍化したり、日食を予測したりするなど天文学にも深く関わっていた。

この日は天候にも恵まれ、観月会では、松林の上に満月がきれいに浮かび上がり、参加者たちはふるさとの偉人の功績に思いをほせていた。

江戸時代の地理学者で、日本で初めて経緯線を入

れた日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）

を作成した長久保赤水（1717～1801年）をし

のぶ「赤水忌」が10日、

出身地の高萩市で開かれた。

天文学者でもあった赤水にちなみ、中秋の名月をめでながら、墓や住まいなど

ゆかりの地を巡る催しで、

長久保赤水顕彰会などが主